

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1073100446		
法人名	株式会社 ヴィラ		
事業所名	グループホーム ヴィラ		
所在地	群馬県邑楽郡邑楽町大字赤堀8		
自己評価作成日	平成23年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成23年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域で小規模な居住空間、家庭的な雰囲気の中で生活を継続しながら一人一人の思いや希望、意向を職員全員で把握し、日々のケアをさせて頂いております。朝のティータイムの時間にはその時に飲みたいものを毎回利用者様にお聞きし出しております。玄関には夜間帯以外は鍵をかけず外に自由に行くことができます。職員も同行出来る時は一緒に散歩します。日中の時間は利用者様はあまり居室へは行かずにホールにみなさんと過ごされることが多く会話や歌を聴いたり歌ったりして楽しい声があつております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本人の希望により入浴できる体制となっている。基本的には1日おきの入浴となっているが、毎日入浴をしている人も居る。入浴が好きな利用者にとって毎日入浴できる事は喜びでもあり、自分の思いがかなうことによって心地よい居場所となっている。また看取りの経験をしたことで家族との関係や職員の意識などに変化があり、今後も家族との関係性を築き、希望を聞きながら医師・施設等関係者が協力し合って看取りの支援に向けて努力する様子が伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々、理念の共有を心がけている。会議の時に読みあげていましたが9月1日より朝の申し送り時にスタッフ全員で読み上げています。	朝礼時に毎日読み上げ職員と共有している。管理者はその都度職員に指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時、挨拶したり隣組に入っているので回覧板で情報交換をし、福祉祭りには利用者の作品を出品しております。	町役場にて行われる秋の福祉祭りに作品を出展し利用者が参加している。芸能の披露もあり鑑賞している。また出店の食品を食べたり骨密度の検査をしてもらったり楽しんできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は行っておりませんので今後どのようにしていくか検討しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在取り組んでいる内容を報告し意見交換しています。地域包括からのアドバイス(ボランティア利用)福祉祭りに利用しました。	運営推進会議での話し合いからボランティアの活用に結びつけ、災害時の講習などの研修にも参加できた。行政や地域の情報をもらい利用者のサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き交流を図っております。H23.7.6日邑楽町社協主宰の緊急企画に参加しました。	介護保険の代行申請などで行政に出向いている。管理者、運営者は情報交換を行っている。出前出張などにも協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵はかけておらず自由に散歩などして頂いております。H23.1.29身体拘束に関するシンポジウムに参加。夜間帯など利用者様のトイレ介助やポータブルトイレへの介助をする際、鈴を利用し音がなったら居室へ訪室しております。	玄関は施錠している。ふらつきのある利用者に対して椅子から立ち上がってしまうので安全ベルトを使用している。外に出かける時は職員が同行している。職員は身体拘束の研修には参加している。	利用者の状態や状況もあるが、工夫を重ねて安全ベルトを外し、玄関の開錠を実現できるような努力をお願いしたい。また安全ベルトの使用は家族の了解とケアプランへの反映をお願いしたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の際に虐待について全員で話し合い防止に努めております。会話の中からも虐待のサインを見逃さないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	H21.9.3に参加した地域包括支援センターの方に研修して頂いた資料を参考に定期的に話し合いをしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を基に時間をかけて説明しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置するとともに話しやすい雰囲気づくりを心がけております。家族の要望も記録に残しております。	日常の会話の中から家族の希望や要望などを吸い上げている。要望の取り組みは記録されている。結果は家族に報告し家族の要望に応える努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議においての意見を管理者より代表者に伝え話し合いをしている。勤務時間の変更(遅番)。現在の畳所の除去をあげ承認をいただいた。	職員の職場内の異動は無かった。管理者は職員に対して仕事や家庭のことなどその時々声を掛けている。希望休があり働きやすいシステムになっている。職員は管理者に意見を言っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの意見を参考に話し合いをしている。夜勤手当が3000円から4000円に変更になった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修の参加を促している。 H23.2.18日 介護記録研修会(東京) H23.1.19日 身体拘束廃止に関するシンポジウム		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入し情報交換、研修等に参加している。 レベルアップ研修 H22.9.24日 H23.8.9日		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の望む生活やしたい事を時間をかけて聞き取り安心して利用開始出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークからアセスメントの段階で家族と話し合いを重ね、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも説明し、本人や家族に情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いに共感し共に支えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のコミュニケーションを大切にし日々の暮らしの中の情報を交換し同じ気持ちで支援出来る事を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも自由に電話をかけたがり外出出来るようにしています。 H23.7.9 手紙 s・t様 H23.6.18 電話 s・t様 H23.8.1 電話 s・y様	友人が面会に自由に来訪できる。家族と一緒に墓参りや外食・散髪に自由に出かけている。また年賀状の代筆支援などを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を職員全員が理解し利用者同士が円滑に過ごせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した家族において連絡があった時など随時相談に応じています。施設入所した人に面会に行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中より本人の望んでいる事を聞いている。意思疎通の困難な方については家族から情報を得ている。 H23.8.1 k.t様	日常会話の中より本人の意向を確認している。また本人から聞けない場合には家族から情報をもらい本人の表情などから意向を確認している。職員はケア会議で意向の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に本人または家族にお聞きし把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を一緒に過ごしなが把握する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中から利用者様の思いを把握し反映出来るようにしている。カンファレンスで職員全体で意見交換している。介護計画をすぐに見られるようにケース記録に貼っています。	毎月のモニタリングを行い、モニタリングにより随時の変更を行っている。また3ヶ月毎の見直しを行っている。カンファレンスで職員は情報を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を作成しており毎日の情報を記録している。職員全員が把握出来るように記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診付き添いや嗜好品の買い出しなど支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して地域で暮らせるように区長さんや民生委員の方と意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する主治医になつていません。毎週金曜日にホームの協力医院の往診も希望者には行っております。M様 H21.12月入所時、小林内科医院に変更。H22.4月医療費の件で福地医院に変更。H23.8月家族の都合で小林内科医院に変更	家族の希望する主治医となっている。基本的には家族受診だが都合で家族が出来ない場合は施設送迎も行っている。受診の結果は会議で職員は情報交換をしている。協力病院より往診が月4回ある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており利用者の健康管理や状態変化に応じた支援の提供。主治医に毎月健康情報提供を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供しており家族にも情報交換しながら退院支援に結びつけている。サマリー提出。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態について事業所としての対応の出来る事を家族にお話ししている。主治医の協力の基H22.5.30 永眠した利用者様を看取りました。	重度化した場合の指針が作られている。2年間で2人の看取り経験がある。家族と施設、主治医の連携で今後も家族の希望に添えるよう支援していく方針を共有している。。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	H22.3.15 普通救急救命講習 H23.8.8日9日 普通救急救命講習参加。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い対応方法について職員全員で把握する。運営推進会議等、区長さん、民生委員さんに協力要請。回覧板を回しながら隣組に協力要請。H23.7.6.震災時の介護や助け合いを考える会に参加。	年2回の訓練を実施している。1回は消防署立会いで行われ、地域への協力依頼がされている。備蓄の用意はまだない。	自主訓練の増加と災害時に備えての備蓄の用意をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりにあった声かけをし自尊心を傷つけないようにしている。S・H様→はなちゃん(幼少の頃からずっとこの呼び方をされていて本人も馴染みがある。その他の方はさん付けにしている。	排泄時の声掛け、本人の呼び名など個別に配慮されている。基本的には姓にさん付けである。個室での排泄介助をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝のティータイムの時間には利用者様が自分で飲みたい物をその都度決めております。H23.7.14H23.8.18外出時アイスクリームを食べに行き自分で食べたい物を注文しました。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが時間を区切ったりせずにその日その時の本人の気持ちを尊重し出来るだけ個別性のある支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服は利用者様が選んでいます。出来ない人のみ支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は良事の準備や後片付けを一緒に行っていましたが現在の入居者の状態では困難な為簡単な食器拭きなどのみしております。現在はタイヘイの食材を利用していますがその食材を老人向けの献立にしたり味付けも変えたりしています	配食サービスを利用している。祝い膳(誕生日)には好きなものを注文している。利用者から食べたいと希望が出た時は配食を止めて好きなものを外に食べに行くことも出来る。職員と一緒に食事をしていない。	また以前の様に職員も利用者と一緒に同じものを食べられる様に努力をお願いしたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分の摂取量を毎日チェックし記録し職員全員が把握している。利用者様一人一人のペースに合わせ時間に縛られ事のないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方はブラッシングしている。出来ない方はこちらで支援している。入歯洗浄剤に毎夜つけております。洗浄剤につけることは職員が行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々のサインを見逃さずに誘導を行っています。自尊心に配慮し身体機能に応じて行っております。現在は日中のオムツ使用者はおりません。夜間帯のみ1名オムツ使用しています。	職員は各人の排泄のパターンを把握している。排泄の誘導を行いそのとき排泄が無い場合には時間をかけて誘導している。こまめな誘導を行い自立支援やおむつ代の節約にも繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	平便チエツクリストを作成し便秘がちな利用者様には水分を多めに摂っていただいたりリハビリ体操に取り組んで頂いたりしている。必要に応じて主治医の指示通りに服薬している。 H23.6 S・H様 服薬変更		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には2日に1回入浴する事になっているが本人がその時希望した場合や希望しなかった場合は本人の意思に任せています。しかし入浴拒否が続く場合は声かけにて納得して頂き入浴されております。	希望した時の入浴が出来る。声を掛けて入浴をしたいときに入浴している。拒否のある人には工夫をしながら入浴に繋げている。シャワー浴、足浴などもしている。入浴剤など使い快適な入浴を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人自由に午睡したりしています。就寝前も一人一人テレビを見たり新聞を読んだり昔からの習慣を大事にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋により把握している。変化があれば情報を共有化している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみなどをお願いした場合は感謝の言葉を伝える。利用者の誕生日には本人の好きな食事、嗜好品、ケーキ、おしるこ、そばなど希望を聞いて出しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の植物を見に行ったり福祉祭り、こぶ観音に全員で初詣に出かけるなどしている。全員での外出はほぼ月1回日曜日に買い物に同行している。利用者様と家族で墓参りに行ったりしている。	こすもすや桜の花見をドライブを楽しみながら出かけている。地域の行事に出掛けた際は外食もしている。アイスクリームを食べに出かけることなども楽しみの外出になっている。買い物支援も月に1回行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で家族よりお預かりしていません。本人がお金の事で聞いてきたときなどその都度、事務所にある事をお伝えしお財布を見せるなどして安心して頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを出しています。宛名などは職員が書きますが差出人は利用者様を書いております。電話は自由に掛けて頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃や季節に合わせた壁面作成により居心地の良い環境作りに努めております。車椅子の利用者様が多くなりホールが狭くなってしまった為、畳所を撤去しソファを置く予定です。	共用空間にはテーブルの部分とたたみの部分とがありそれぞれ使い分けられている。適度な明るさがあり心地よい。壁には共同作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチを設置し自由に使用しております。天気の良い日などベンチで皆さん仲良く外気浴している姿をよくみかけます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の意思を尊重し使い慣れた物を使用しています。家族の写真を飾ったり花を置いています。	居室には家族の写真やテーブル、椅子、整理ダンスなど持ち込まれている。化粧品などもあり日々の生活をうかがわせる。個性のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の持っている力、機能を把握し、それぞれに応じた環境を提供しています。		